



まほろばだより

— Center for Diversity and Inclusion —

2022
June
vol.41

第41号

Contents

- Report1 第11回女性研究者学術研究奨励賞 授賞式・受賞講演
- Report2 本学教員・研究者及び附属病院勤務医師の女性割合
- Report3 6年一貫教育授業・良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」
- Information 1 令和4年度下半期研究支援員配置希望者募集



Report
1

第11回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました



6月6日、巖櫃会館大ホールにて第11回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を執り行いました。

第11回は、小児科学講座の古川晶子助教が受賞の栄冠に輝きました。授賞式には小児科学講座の野上恵嗣教授等関係者が出席し、その模様はオンラインでも広く配信されました。細井裕司学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、古川晶子先生が「血友病Aに関する基礎的研究および治療有効性評価法の確立」について講演されました。



【古川晶子先生のコメント】

この度、第11回女性研究者学術研究奨励賞を頂戴し、大変光栄に存じます。歴史ある小児科学教室の諸先輩方が築いてこられた数々の研究を土台とし、これまでの成果を得ることができました。ご指導いただきました野上恵嗣教授、嶋緑倫医学部長、小児科学教室の先生方、研究室スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。また、女性研究者・医師支援センターの皆様には、研究支援員の配置にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

血友病は、近年新たな治療法が登場し患者さんのQOLは向上していますが、残された課題や新たに生じた問題なども数多く存在します。医師として患者さんの心に寄り添いながら、研究者として問題解決の緒を見つけられるよう、これからも精進してまいります。



Information
1

令和4年度下半期 研究支援員配置希望者を募集します



当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントが原因で、一定期間、研究時間が十分に取れない常勤の女性研究者・医師（教員、診療助教、病院助教、研究助教）を対象に研究支援員を配置しています。現在は診療助教4名、臨床系教員9名、基礎系教員1名の合計14名の女性研究者がこの制度を利用しています。

令和4年度下半期（令和4年10月～令和5年3月）の希望者募集については、7月に学内一斉メール・学内専用HP等から案内予定です。制度の利用を新たにご検討されている方は、女性研究者・医師支援センターの須崎 康恵マネージャー（内線2525）までお問い合わせください。

本学教員・研究者および附属病院勤務医師の女性割合 (令和4年5月1日現在)

女性研究者・医師支援センターは、平成23年度から3年間は文部科学省科学技術人材育成費補助金、平成26年度以降は法人予算を用いて女性教員増加に向けた様々な活動を行なっています。当センター設立後、本学の女性教員・研究者の割合は着実に増加し、令和4年度は25%を超えています(図1)。しかし、本年度の医学科女性教員数とその割合は、令和2年度と比べて低下しており、第3期中期目標・中期計画(令和元年度～令和6年度)の目標値である19.0%を僅かに超える19.1%に留まっています(図2)。第2期中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)では、本学で最も女性割合が低い臨床系女性教員を増加するために数値目標を設定していました。第2期中期目標・中期計画の終了後も臨床系女性教員数は増加していますが、本年度は46人となり令和2年度と比べると減少しています(図3)。臨床系女性教員は、学生のみならず臨床研修医や医員等若手医師にとっても身近なロールモデルであり、本学の男女共同参画推進に重要な役割を担っています。教員候補となる診療助教に占める女性医師の割合は約30%となっています(図4)、臨床系女性教員の採用割合は、令和元年度をピークに直近2年間は10%台と低い値で推移しています(図5)。女性診療助教から教員への積極的な登用を今後も各臨床系教室に働きかけていきたいと思ひます。一方、本学の常勤女性医師数は若手医師を中心に増加しており、本年度は第3期中期目標・中期計画の最終目標値である140人を超える145人となりました(図6)。臨床系女性教員の増加には、候補となる若手の常勤女性医師の育成が不可欠です。女性研究者・医師支援センターでは、不妊、妊娠・出産、育児等のライフイベント中の若手女性医師の研究活動を支援するため、令和3年度からは研究支援員配置制度等、研究支援の対象を常勤の病院助教にも拡大しています。女性研究者・医師を対象にした研究支援につきましては、当センターのHP「研究支援のご案内」をご覧ください。

図1 医学部女性教員・女性研究者割合の推移

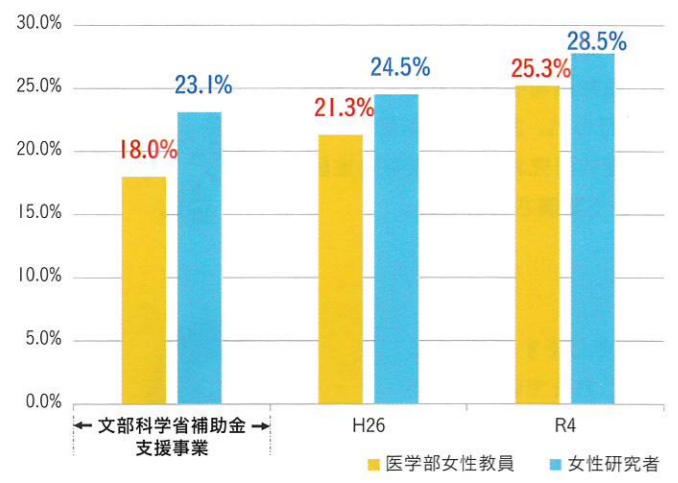


図2 医学科女性教員数・割合の推移

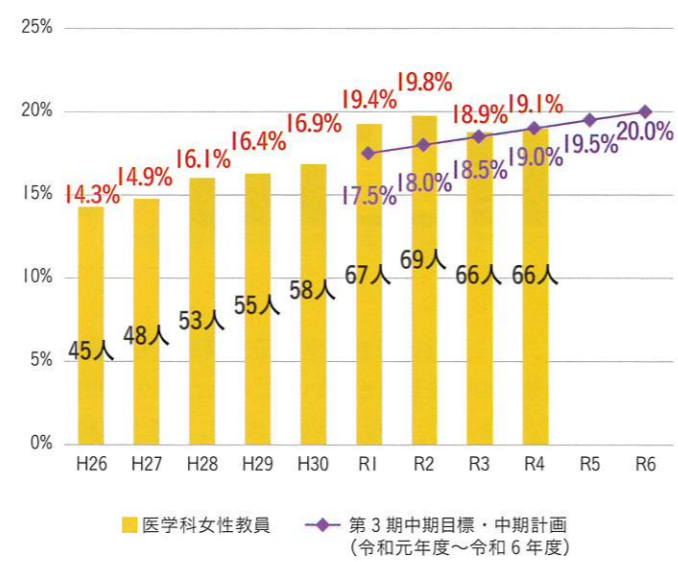


図3 臨床系女性教員数の推移

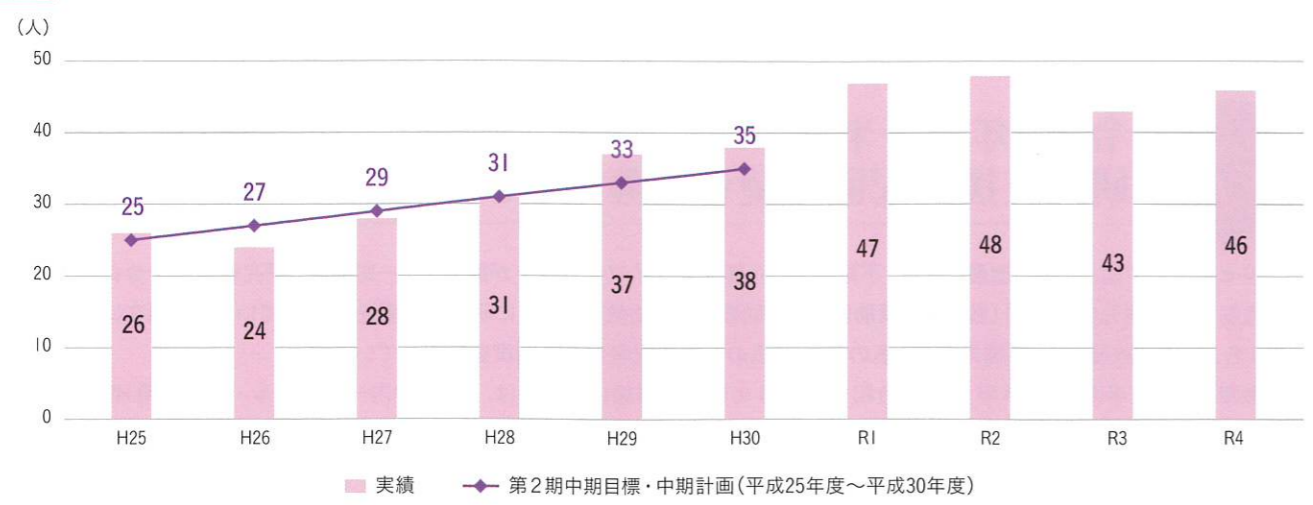


図4 附属病院勤務医師の職位別男女割合

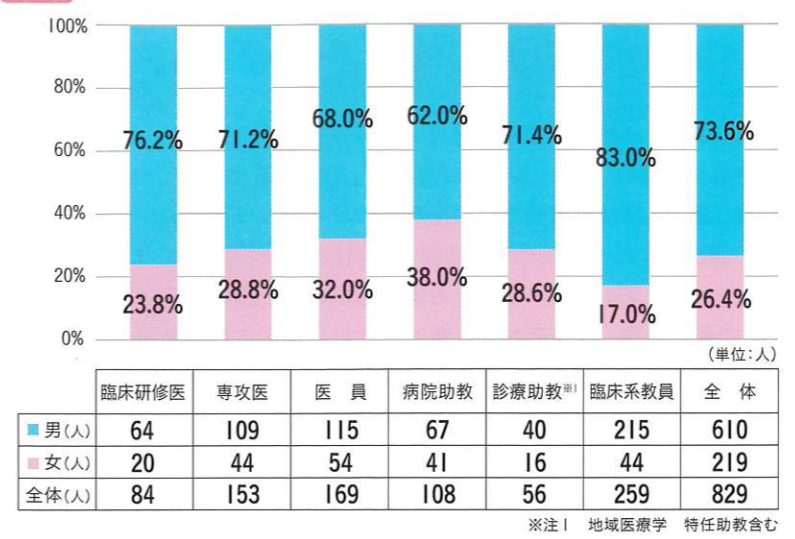
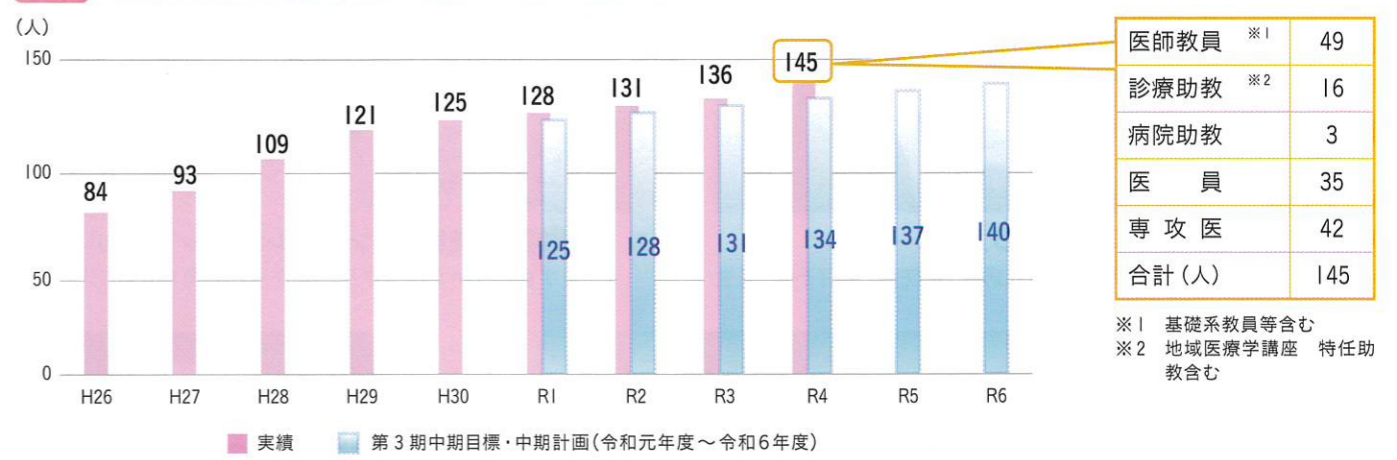


図5 女性教員採用割合

	医学部女性教員	医学科女性教員	臨床系女性教員
H26	18.2%	12.8%	16.1%
H27	26.7%	23.3%	21.6%
H28	30.2%	22.9%	22.7%
H29	23.1%	22.2%	20.0%
H30	31.4%	22.6%	24.0%
R1	33.3%	28.9%	35.1%
R2	15.4%	13.2%	11.8%
R3	31.6%	23.5%	16.7%

注) 女性教員採用割合 (%) = $\frac{\text{女性教員採用数}}{\text{男女教員採用総数}} \times 100$

図6 常勤女性医師数(週5日勤務)の推移 ※臨床研修医を除く



令和4年5月1日現在、臨床系女性教員46人の所属教室は図7の通りです。本学で最も多く臨床系女性教員が在籍するのは小児科学で、6人の女性教員が活躍されています。次いで、産婦人科学が5人、眼科学が4人と続いています。臨床医学教室の中で講師以上の上位職に女性が在籍するのは、全27教室中9教室(小児科学、眼科学、皮膚科学、放射線診断・IVR学、病理診断学、放射線腫瘍医学、リハビリテーション医学、消化器内科学、脳神経内科学)であり、このうち7教室では複数の女性教員が在籍しています。上位職に女性が在籍する教室では、後進の女性医師の育成も進んでいることを反映した結果と思われます。

図7 臨床系女性教員の所属教室(令和4年5月1日現在)

所属教室	人数(人)	所属教室	人数(人)
小児科学	6	消化器内科学	1
産婦人科学	5	糖尿病・内分泌内科学	1
眼科学	4	脳神経内科学	1
皮膚科学	3	総合医療学	1
放射線診断・IVR学	3	がんゲノム・腫瘍内科学	1
麻酔科学	3	整形外科	0
病理診断学	3	救急医学	0
消化器・総合外科学	2	胸部・心臓血管外科学	0
精神医学	2	口腔外科学	0
放射線腫瘍医学	2	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	0
感染症センター	2	腎臓内科学	0
リハビリテーション医学	2	脳神経外科学	0
循環器内科学	1	泌尿器科学	0
呼吸器内科学	1	その他	2
		臨床医学系女性教員合計	46

一方、女性教員がゼロである臨床医学教室は、令和元年度の9教室から減少はしていますが、8教室あります。これら8教室のうち、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、腎臓内科学の3教室では、女性教員は在籍しないものの女性診療助教が在籍しています。その他の5教室(救急医学、胸部・心臓血管外科学、口腔外科学、脳神経外科学、泌尿器科学)では女性教員及び女性診療助教ともゼロとなっています。今後、女性教員ゼロの8教室に女性教員が誕生し、その他の教室には、より多くの女性教員が就任することを期待しています。当センターでは、女性研究者・医師への研究支援を中心に、ワークライフバランス推進やハラスメントの防止、医学科学生へのキャリア教育などを通して、今後も女性の活躍を応援していきたいと思ひます。

□ 講師以上の上位職に女性が在籍する教室

良き医療人育成プログラム 「ロールモデルを探す」の授業を実施しました



医学科2年生116名を対象に、女性研究者・医師支援センター教員の須崎康恵マネージャー、裏山悟司コーディネーター（生物学）、当センターおよび教育支援課の事務職員が協力し、「ロールモデルを探す」の授業を行いました。本年度の第1回、第2回授業はTeamsを用いたオンライン授業、第3回目は大講堂での対面授業のハイブリッド形式で実施しました。講演後のグループワークでは、学生たちは熱心に議論を交わし発表や質疑応答にも積極的に参加していました。学生はオンラインのグループワークや発表にも慣れており、オンラインの方が自分の意見を照れずに伝えることができ参加しやすかったという感想を寄せる学生もいました。ご多忙の中、講演をお引き受けいただき学生に意義あるグループワークの課題をお示しくださった大和高田市立病院副院長の川口千晴先生、くずもとファミリークリニック院長の葛本幸康先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。学生の皆さんもお疲れさまでした。

第1回 5月13日



講演 「小児医療に取り組む」

大和高田市立病院 副院長 川口千晴 先生

第2回 5月20日



講演 「開業医の技術—アントレプレナーシップとともに」

くずもとファミリークリニック 院長 葛本幸康 先生

第3回 5月27日

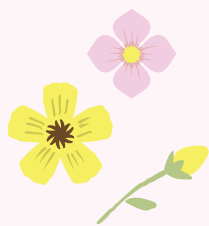
講演

「医師の 男女共同参画」

女性研究者・医師
支援センター
マネージャー
須崎康恵 先生



▲ 講演の様子



コーディネーター
裏山悟司 先生



▲ グループワークの様子

【編集後記】

今回のニュースレターが第41号となりました。女性研究者・医師支援センター設立後、1年に4回発行してきましたので、早10年の月日が流れたこととなります。その間、本学の女性教員は増加し、女性教員の科研費獲得等研究力も向上しています。次の10年では、上位職女性教員の更なる増加を目指して活動していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

マネージャー 須崎康恵

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp



ここに



ここに



ここに

